

「連合2017平和行動in沖縄」派遣団報告

「語り継ぐ戦争の実相と運動の継続で恒久平和の実現を」

～平和オキナワ集會に、全国から1,100人が結集～

連合は、沖縄戦から72年目となる慰霊の日にあわせ、6月23日・24日の2日間、「2017平和行動inオキナワ」が開催されました。連合福島からは、派遣団として白河地区連合の畠山議長を団長に11名が参加をしました。1日目は、沖縄県浦添市の「てだこホール」で「平和オキナワ集會」が開催され、全国から1,100人が集まりました。

主催者の神津会長は挨拶の中で、辺野古の基地建設について、

「沖縄が抱える問題は日本全体の問題。沖縄負担軽減こそ重要だが、県民の大きな反対がある中で『たらい回し』を強硬に押し切るのは極めて遺憾」政府に、沖縄と丁寧な対話を重ねるように求めました。

地元の連合沖縄の大城会長は「基地で働く労働者の労働基本権の回復と、新たな基地を造らせないと頑張っている沖縄と連帯をお願いしたい」と挨拶が

ありました。最後のアピールでは沖縄の過重な基地負担を問題視。米軍普天間飛行場の移転先については「辺野古が唯一の解決策と政治的に決めつけ、沖縄県民の意見を聞かず、強固に護岸工事に着手している」と、政府を批判し、在日米軍の整理・縮小と日米地位協定の抜本的見直しを政府に要求する「沖縄からアピール」を採択し、平和運動の推進を誓い、1日目が終了。

2日目は、各地方連合会の要望が組み込まれた「ピース・フィールド・ウォーク」に参加しました。沖縄戦時の激戦地となった嘉数高台公園やアメ

リカ軍の普天間基地、更には嘉手納基地や平和祈念資料館、ひめゆりの塔などを視察しました。その後、連合主催の「在日米軍基地の整理・縮小」日本地位協定の抜本的見直し」を求める行動集會に参加、県庁前民広場から国際通りを通り牧志公園までデモ行進を行いました。



平和オキナワ集會で挨拶する連合神津会長



連合平和オキナワ集會に参加された連合福島派遣団の皆さん



デモ行進前の集會会場にて



デモ行進をする連合福島派遣団の皆さん